

第1回敷島地区地域審議会会議録

1 日時 平成26年5月30日(金) 15:00~16:30

2 場所 甲斐市役所 敷島庁舎 会議室1

3 会議次第

(1) 開会

(2) 委嘱状交付 (中村佳明委員、柴田健一委員)

(3) 企画政策部長あいさつ

(4) 会長の選出

(5) 会長あいさつ

(6) 報告事項

①資源リサイクル推進事業について

②甲斐市民バスの現状と今後について

③市制10周年記念事業について

(7) その他

(8) 閉会

4 出欠席者

(1) 出席委員 [7名/6名]

(2) 欠席委員 [1名]

小田切委員

(3) 事務局

小田切企画政策部長、内藤秘書政策課長、坂本企画財政課長、小田切環境課長、
中込敷島支所長

企画係：中込係長、生活環境係：内藤主事

秘書政策課総合政策係：丸山係長、小澤主査、古屋主任

5 決定事項 会長 石原 修委員

6 主な質疑

①資源リサイクル推進事業について

・7時から19時までの間は、職員がいるか。

⇒シルバー人材センターの方が定期的に巡回し、19時に施錠をして終了する。

・市民の要望により、場合によっては時間が延長する可能性があるか。

⇒市民は、基本的に各地区の資源ごみ回収を利用していただく。リサイクルステーションは、
利用できない方が対象になると考えている。

・ごみの問題は万全に近い。感謝を申しあげたい。

・地域の資源物の回収などの活動について周知したほうが良い。

⇒地区ごとにごみカレンダーを策定して周知をしている。

・ 集合場所については、他の場所があるため、フェンスを設置したほうが良い。
⇒そのような意見は随時募集している。環境課長まで直接言っていただきたい。

②甲斐市民バスの現状と今後について

・ 利用者が減少したのは大雪の影響がかなりあったのではないかと。

⇒大雪の影響は非常に大きい。しかし、毎月同様の傾向が出ている。

・ 運行路線などの見直しをかけることも過去にあったか。

⇒平成 22 年 7 月から、実証運行を行い、その間に運行路線や運行日等を検討し、平成 25 年度から本格運行している。

・ 高齢者対策として、多少赤字であっても検証して続けるべきである。

・ 運行基準は決めておく必要があるが、運用については、若干の上下を認めていくべきである。

⇒本格運行をするうえで判断基準や節目の時期は必要と考える。今後の方向性については、関係部署と協議し、検討していきたい。バスの応援事業も広報等で周知していきたい。

・ 国の補助率はどれくらいか。

⇒実証運行期間は補助金が出た経緯はあるが、現在は市の単独費用で運行している。

・ 応援事業として、医大利用者のための、何らかの優遇といった事業をしてみても。

⇒医大に何か協力してくれることがあるか話をする。なお、応援事業として、医大前のイツモアも対象となっているため、医大の利用者は活用して欲しい。

・ 曜日や時間はアンケートにより決まったのか。

⇒実証運行の時に検討を行い、現在本格運行している。

③市制 10 周年記念事業について

・ 9 月 1 日の記念式典の時に農産物を集めて、市民が集まる催しをしてみても。また、図書を集めるような行事を加えて欲しい。

⇒農協及び図書館に話をしておく。

④その他

・ 市民が自治会へ入らないことを行政はどう捉えているか。

⇒市民活動支援課において、自治会連合会と共に、自治会活動について周知するなどし、加入促進を図っている。

・ 税金を納めないで時効になってしまう実態があるか。

⇒市では、平成 20 年度から収納課を設けて、税を納めないで得をすることがないように適切な対応をしている。

・ 災害に備え、自治会区長にも民生委員と同様に 65 歳以上の名簿を渡すことを前向きに検討していただきたい。